

令和8年度 学校経営方針

【基本的な考え方】 できることはベストを目指す集団『チーム北野』

①良かれと思うことは、すぐに改善していく。来学期や次年度に回さない。

「前例踏襲」という考えはアウト！ いいと思うことは、どんどん実施。その判断基準は、従来からの考えと新たな考えを比べて「どちらが子どもたちのためになるか」。

失敗を恐れない！

②いいものはTTP(徹底的にパクリ)

見たり聞いたりしたことで、少しでも「やってみたい！」と思うことは、学年で相談して、児童の実態を考慮した上で実施する。やるからには、とことんマネする。

③不要なもの・古いものは、思い切って切り捨てる

新たな考えを実践することは○。しかし、それによって「お宝」が増えていくことは避ける。新たなことを始めたら、その分、過去の遺産を捨てていく。(SCRAP&BUILT)

MIRAI SCHOOL いたばし - アクションプラン2028 - の1年目として

《最も大切に考える》 教育は人が幸せに生きるためにあります

教育を通して、学ぶ喜びや成長する喜び、人とつながる喜びを感じられる一人ひとりの生涯

- Motivation (モチベーション) : 自分らしく進むチカラ
- Inclusion (インクルージョン) : 認め合って生きるチカラ
- Relation (リレーション) : つながり助け合うチカラ
- Activation (アクティベーション) : 自ら行動を起こすチカラ
- Innovation (イノベーション) : ゼロから切り拓くチカラ

《板橋区教育委員会が目指す具体的な教育課程編成の方向性》

◇柱1 保幼小接続・小中一貫教育の推進 イエナプラン教育の要素を取り入れた教育の推進

- ①異年齢での学び合い ②自己調整型の学び ③探究的な学び
- ④話し合い活動の充実 ⑤子どもたちによる自治的な活動

◇柱2 確かな学力の育成 読み解く力を基盤とした板橋区授業スタンダード・スタンダードSの徹底・推進

①板橋区授業スタンダード

・学習課題及びめあての設定 ・自力解決 ・集団解決 ・まとめ・振り返り

②板橋区授業スタンダードS

子どもたちが、自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自己選択、自己決定し、学びを自己調整しながら進める学習過程

③読み解く力

教科書等の分掌や図表等から読み取ったこと (INPUT) を基にして、分かったこと、考えたこと (THINK) を相手に伝える力 (OUTPUT)

◇柱3 豊かな心と健やかな体の育成 福祉教育の推進

- ①道徳教育の推進 ②人権教育の推進 ③体験活動の充実

◇柱4 安心・安全に学べる居場所の充実

安心して過ごせる居場所づくりの充実

＜教育目標＞ ※実施 2 年目

思いやり…「徳」 誰に対しても優しく接する

元気………「体」 自ら進んで体を動かし、健康に気を付ける

共に学ぶ…「知」 友達と一緒に、様々なことに好奇心をもって学力を付ける

＜今年度重点的に取り組むもの＞

1 校内研究「国語科」の取組

一昨年度から始まった「読むこと」の研究『言葉に着目して読み、自分の考えを表現する児童の育成』の成果と課題を確認し、さらに深めていく。今年度は板橋区教育委員会研究奨励校の2年目であり、発表に向けて「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れることも考えていく。

2 学力の定着・向上に向けた「板橋区 授業スタンダードS」の実践

※ 児童の実情を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげ、児童の学力向上を図る。

※ “読み解く力”は、学習を進めるにあたっての基本となる力である。国語の授業だけで育てるというものではないことを改めて理解し、日々の授業の中で育成していく。

① 授業の導入で学習の目標（めあて・ねらい）を明確に示し、授業の終わりに子ども自身に学んだことをふり返らせる。 ※アウトプットを意識しためあての設定 「共書き」の実施

② 子どもが自分で課題を解決する時間を確保する。

③ 友達と自分の考えを交流してお互いの考えのよさに気づき、よりよい考えを創り出す時間を確保する。

④ 電子黒板や実物投影機などICT機器や思考ツールを効果的に活用し、「分かる できる 楽しい」授業を進める。

⑤ 算数、英語の授業での習熟度別学習の実施や、補充的な学習で「すらら」の学習教材を活用するなど、基礎的・基本的な知識を確実に習得する学習を充実する。

※授業における3つの大切なこと 『一単位時間の学習過程』『発問の精選（3つ程度）』『板書計画』

※「深い学び」をするために、アウトプット（文字言語による表現）を大切に！

※ふりかえりを入れるために、時には授業構成については「後ろから時間配分を考える」！

※ふりかえりは「は・な・こ」

「は」初めて知ったこと・分かったこと 「な」なるほど！と納得したこと

「こ」今後してみたいこと・学びたいこと

3 SDGs 17の目標への取組 持続可能な社会の創り手を育成する

17の目標を理解し、誰一人取り残さない社会の実現を目指して、身近なところから各学年・学級に応じた取組を行う。子どもと共に教師自身も意識改革・行動変容に取り組んでいく機会とする。

4 不登校児童・生活指導上課題のある児童に関する対策

不登校児童が出ないよう、マニュアルに沿って休みがちな子どもへの対応を迅速に行う。

日頃から子どもたちの様子を把握しながら、個に寄り添う指導を重ね、問題が大きくなる前に対応ができるよう取り組んでいく。（生活指導主幹が「生活指導」「特別支援教育」双方のまとめ役になる。）

＜校長の基本姿勢＞

1. 学校経営 ～あたりまえのことをあたりまえにできる学校に～

子どもたち一人一人のよさを認め、賞賛し、その心をより豊かに育みながら、私たち教師もプロの教師として“あたりまえのこと”を確実に行っていきたい。子ども一人ひとりを褒めて伸ばしたい。

“プロの教師のあたりまえ”として以下の点を考えている。

◇子どもを愛し、優しくかかわることができる。

◇子ども一人一人の問題意識を活かしながら、ねらいに迫る授業展開ができる。

◇子ども一人一人のよさを受容できる。

- ・子どもが表出するマイナスの言動にのみ反応することなく、その原因となっている事柄に寄り添う姿勢で子どもとかかわり、“その子”のよさを理解する。

◇子ども一人一人の健やかな育ちを考え、日々必要な努力しようとする。

授業づくりを楽しむことができる教師！

- ・子どもが好きだから、教材を探したり工夫したりしたくなる。
- ・子どもの反応を楽しんで受け入れられる。
- ・子ども一人一人の反応を予想し、イメージできる。
- ・楽しむことができる心の余裕をもつ。
- ・楽しめれば、笑顔が出る。
- ・笑顔が出れば、子どもは安心する。

2. 学校経営の目標 『チーム北野』『北野プライド』

- (1) 教職員が自分の力を発揮できる学校
- (2) 子どもが生き生きと学ぶ学校
- (3) よさを受け継ぎ、“北野小らしさ”をもつ学校
- (4) 新規採用教員をはじめとする若手教員を温かく育てる学校
- (5) “新しい感覚”を大事にする職場風土をもつ学校
- (6) 教師一人一人の努力を大切にす職場風土をもつ学校
- (7) 服務事故を起こさないという意識を大切に、緊張感ある職場風土をもつ学校
- (8) 校内研究「国語」に取り組み、教科の本質を理解し、指導力を向上できる学校

- ◎チームワーク
- ◎フットワーク
- ◎ネットワーク

3. 目標に迫るために

(1) 教職員が自分の力を発揮できる学校

よい学校をつくる力の第1は、教職員一人一人の働きである。職場で働く目的を“子どものため”と共通理解し、お互いの努力を認め合い、支え合い、協力して職務にあたる。

第2は、“あたりまえ”を成立させる子どもの心と、がんばりである。そのために、各家庭でやるべき必要なことをしっかりと求めていく。

(2) 子どもが生き生きと学ぶ学校

子ども一人一人の居場所をつくる。子どもの求めや、その子の学びの道筋を理解し、一人一人を大切にしかかわりをする。たとえ問題行動を起こす子どもであっても、その子どもを受容し、その子のよさを認め、少しずつ課題を改善していくようにする。そのためには、学年・専科が情報を出し合い、子どもの変容を広い視野でとらえられるようにする。情報は、管理職に報告することで、学校として子どもを確実にとらえられるようにする。※この取り組みが、不登校〇に繋がるはず！

さらに学級だけでなく、縦割りで活動する場も居場所の1つとして大切にする。丁寧な子どもへのかかわりから、いじめの芽を早めにつかみ、早期の対応によっていじめが行われないようにしていく。

我が子に受けさせたい教育・指導を常に意識し、かかわり方を考える。

(3) よさを受け継ぎ、“北野小らしさ”をもつ学校

創立70周年の年を迎え、本校のよさを、教職員と保護者・地域、子どもそれぞれが再確認し、そのよさを

受け継ぎ、伸ばしていくことができるようにする。

(4) 若手教員を温かく育てる学校

本校には、新規採用教員をはじめとする若手教員が数多く勤務している。本人がもっている教員としての資質を大切にしながら、必要な知識・技能・考え方等について温かく指導していく。

(教員各自が、自分の「専門教科」を必ずもつこと。特に、本校が初任校である教員は、本校に在籍しているうちに専門教科を決定すること。)

(5) “新しい感覚”を大事にする職場風土をもつ学校

毎年、異動により新たな教員を迎えている。異動してきた教員の感覚を大切にし、本校のよいものは継続しながら、改善すべき点は思い切って改善していく。そういうことができるよう、新しく転入してきた教員であっても、言いたいことが言える風通しのよさを大切にする。(※基本的な考え方①を参照)

(6) 教師一人一人の努力を大切に作る職場風土をもつ学校

本校は毎年クラス替えを行っている学校である。それまでの担任それぞれが、任された学級の子どもへの思いをもって指導にあたっている。その思いを大切にして、新担任は新たな指導を行っていきたい。

(7) 服務事故を起こさないという意識を大切にし、緊張感ある職場風土をもつ学校

服務事故を起こさないという緊張感をもって日々の業務にあたる。互いの意識と日常の声かけを大切にしていく。(疑問に思ったことは必ず口にし、誰かに伝える。)

(8) 校内研究「国語」に取り組み、教科の本質を理解し、指導力を向上できる学校

今年度の研究テーマに迫る取組を進めることはもちろんであるが、校内研究の場を各教員が授業力向上の場と捉え、教科指導の基本を理解するとともに、他の教科にも応用し、自身の指導力の向上を図る。

4 教師が取り組む具体的な内容

(1) よい授業を行う … 魅力あふれる授業づくり

“よい授業”とは、教師が問題意識をもって授業を考え、問題を改善しようと工夫して行う授業であり、その結果子どもたちが生き生きと学ぶ授業である。求められる授業スタイルは、問題解決型の授業。課題に対して意欲的に問題をもち、子どもが主体的に問題解決に取り組む。そういう授業を実践していきたい。

日々5～6時間行われる授業で子どもが満足することをまず大事にする。授業に満足している子どもは、満たされ、学校が楽しいと感じられるようになる。その結果として学力が向上するであろうし、生活指導面にもよい影響をもたらすものとなる。

① 子どもの姿を見取る

子どもの姿から授業を振り返ることが重要である。どんなによい授業を自分でやっているつもりでも、子どもの学びが豊かにならなければ独りよがりではない。子どもの姿を素直に見とり、子どもがどのような学びをしているのか、子どもがどう感じているのかを理解する必要がある。

② 子どもの求めを感じ、受け止め、授業を構想する

子どもが違えば、学びの道筋は変わる。だから、児童の実態をとらえ、授業の進め方を考える。その際、既習事項や子どもの力を把握するのは当然のことであるが、子どもの求めをしっかりと受け止めていく必要がある。(一単位時間でどんな力を身に付けさせたいのか⇒そのために、どんな「めあて」がよいか⇒45分後の児童の理想的な姿をイメージする(どうなったらいいのかが分かる児童のまとめやふり返りの例を覚えておく。))

③ 授業記録をとって人の授業を参観する。(学期毎に具体的な回数を決めて臨む)

教師の発問、かわり、子どもの発言、つぶやき、動作…、そういったものを記録しながら授業を参観することで、教師と子どもがどのように授業をつくっていったのかを分析する。そのことにより、よい発問、よい受け止め、よいかかわり等が分かってくる。

（２）教職員全員で生活指導を行う

教職員全員の目で子ども一人一人を指導する。問題行動が見られる子どもを担任一人で抱え込まなければならぬ状況はつくらない。学級担任と専科担任が子どもの情報を交換し、その子どもに対する適切なかわり方を明確にして指導にあたる。

（３）子どもとかかわる時間を大切にする

授業はもとより、縦割りでの活動の時間、休み時間など、子どもとかかわる時間を子ども理解の場ととらえ、子どもをじっくりと観察したり伸びやかにかかわったりするよう努力する。

（４）プロとしての誇りをもって（北野小に勤務するプライドをもつ）

私たちは、授業を行う資格をもったプロの教師である。それぞれがよい授業のイメージをもち、様々な工夫をして日々授業を行っている。参観する他の人の授業について評価する目はもっているが、自身の授業を正しく評価する目はともすると鈍りがちである。

常に自身の授業を正しく評価し、プロとしての誇りをもって、より磨きをかける努力をし続けていきたい。そのために、教育会の各教科・領域部会への所属・参加を積極的に行っていく。

（５）地域に出る

地域は、学校の理解者であり、協力者である。地域へ出て行く中心は校長や副校長となるが、担任が地域に知られ信頼されることは学級経営の大きな力になることは言うまでもない。地域にボランティアを求め協力してもらうことを考えれば、年に数回地域の活動に教師が参加することは、“ボランティア”としてでも考えるべき内容である。

地域は、子どもが元気で登校し「学校が楽しい」と言っている姿や、教師が熱心に指導にあたり、“よい授業”を行っている姿を求めている。毎日の授業の充実、つまり私たち教師がやるべき教育の充実に一生懸命に取り組んでいる姿があれば、評価している。

５ その他

【心構え】 北野小の教職員であることにプライドを！

①サービスの厳正に努め、「全体の奉仕者」としての自覚をもち行動する。服務事故を絶対に起こさない。教育公務員としての立場を常に自覚し、「信用失墜行為等の防止」に努め、信頼を高める。

※本人だけの問題ではすまされない。家族、そして子供・保護者・地域に多大な迷惑をかけることになる。

②板橋区立の学校として、「板橋区の方針を遵守」し、教育ビジョンの具現化に努める。

③板橋区の職員と同様である我々は、「おもてなしの心」で保護者や地域の方々に対応する。

④「見る人は見る。」…常に教師としての自主・自律の精神とモラルを高揚させる。

⑤北野小学校の先生にふさわしい言動、服装、身だしなみを。

【具体的】

・儀式（始業式、終業式等）は朝会・集会とは異なることを念頭に置き、服装に気を付ける。

・教材を選ぶ際は、一部の業者・出版社に偏らないように配慮する。購入する前に「どうして必要なのか」を十分に考える。

・学年において、密な共通理解が必須。このことが保護者に不安を与えず学校への信頼に繋がる。

◎全ての子供を「褒めて伸ばす」。厳しい指導ばかりでは、子供は反発するだけ。

・叱る時でも、児童のよいところを最低１つ入れる。

・順序として、「叱る」⇒「褒める」 ※叱って終わりにせず、褒めて終わるように！

◎どんなことでも、一人で抱え込まない。何か心配なことが起きたら、近くの教員に相談する。